

U2-2023-

専門多肢

試験問題

注意事項

1. 問題は**60題(64ページ)**あります。受験する区分に応じ、次のとおり解答してください。

○ **矯正心理専門職区分**

問題は必須問題 20 題(No. 1 ～No.20)と選択問題 40 題(No.21 ～No.60)に分かれています。選択問題については**任意の 20 題**を選択の上、必須問題と合計して **40 題**を解答してください。

なお、選択問題については、20 題を超えて解答しても超えた分については採点されません。

○ **法務教官区分、保護観察官区分**

No.21～No.60 の全ての問題(**40 題**)を解答してください。

No. 1～No.20 の問題には解答しないでください。

2. 解答時間は **2 時間 20 分**です。
3. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
4. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
5. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
--------	-------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

No. 1～No. 20

(矯正心理専門職区分)

No. 1～No. 20 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 1～No. 20 は矯正心理専門職区分の必須問題です。これらの問題については解答しないでください。

【No. 1】 次は、S. W. ポージェスによるポリヴェーガル理論とトラウマの治療に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

トラウマを神経生理学的状態として解釈する上での問題点の一つは、今までトラウマがストレスに関連した障害であると考えられてきたことである。トラウマを単純なストレス性疾患と捉えてしまうと、トラウマの原因、作用機序、治療方法を論じる過程で、トラウマ特有の重要な特性を見失うおそれがある。

人間の神経系が、「危険」や「生命の危機」に瀕したとき、通常のスレス反応と同様、交感神経系とHPA系(視床下部－脳下垂体－**A**)が反応し、**B**が分泌され、心拍数の増加、筋緊張、消化活動の抑制といった、「闘うか・逃げるか」の反応が生じると考えられている。

しかし、ポリヴェーガル理論では、生命が脅かされたときには、通常のスレス反応とは違った、二つ目の防衛システムが発動すると考える。そこでは、**C**神経系の古いシステムが使われ、自律神経系の「凍り付き」・「シャットダウン」反応を引き起こす。

こうした反応は、意図的な意思決定の下に起きるわけではない。私たちの神経系は、意識されることなく、常に環境中の危険因子の評価を行い、判断をしている。そして常に、優先順位に従って、その場に最も適応的な行動をとる。ポリヴェーガル理論では、クライアントのトラウマを理解する上で、「**D**のか」について理解することを重視する。

A	B	C	D
1. 扁桃体	アドレナリン	交感	その人がその状況でどのような反応をした
2. 扁桃体	アドレナリン	副交感	どのようなトラウマ的な出来事があった
3. 扁桃体	アセチルコリン	中枢	その人がその状況でどのような反応をした
4. 副腎皮質	アドレナリン	副交感	その人がその状況でどのような反応をした
5. 副腎皮質	アセチルコリン	交感	どのようなトラウマ的な出来事があった

【No. 2】 思考に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 「問題」とは初期状態と目標状態が一致していない事態、「解決」とはこの二つが一致した事態を指す。「良定義問題」では、初期状態と目標状態、そして二つの状態を一致させるために取り得る行為が明確であることから、解決のために探索(search)をする必要はないとされる。良定義問題の例として、K. ドウンカーが用いたろうそく問題などがある。
2. 演繹推論とは、前提となる命題から、論理的に正しい命題を結論として導く推論である。演繹推論は、前提に条件節を含む条件推論と、条件節を含まない対応推論に区別することができる。人間の演繹推論を調べるために心理学でよく用いられてきた課題としては、三段論法課題、4枚カード問題、三つの山問題などがある。
3. 帰納推論とは、前提となる命題から、必然ではないがもっともらしい命題を結論として導く推論である。一般法則からある個別事象を推測することは帰納推論の例である。帰納による結論は、意味情報を増やし、ある種の発見を含むが、常に暫定的なものであり、間違いのリスクを伴う。そこで、結論の確からしさを吟味するリアリティモニタリングが必要になる。
4. 創造的思考は、新しいアイデアやイメージ、成果、理論、技術などを生み出す思考のことである。創造的思考による問題解決は、論理的思考に加え、発想の飛躍を伴い、多様な解を求める集団思考(groupthink)によって特徴付けられる。創造的思考の技法としては、A. G. グリーンワルドらが開発した IAT や川喜田二郎による KJ 法などがある。
5. 批判的思考は、合理的(論理的)で反省的(省察的)な思考のことである。批判的思考の構成要素の一つは批判的思考スキルであり、明確化、推論の基盤の検討、推論などを含む。もう一つの要素は批判的思考態度である。批判的思考の認知プロセスにおいては、プロセスが適切に実行されているかをモニターし、コントロールするメタ認知が重要である。

【No. 3】 乳幼児の認知発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. J. ギブソンと R. D. ウォーク (Gibson, E. J. & Walk, R. D., 1960) は、期待違反法 (violation-of-expectation method) を用いて、乳児の奥行き知覚に関する実験を行った。その結果、奥行き知覚の成立は生後 9 か月以降であると解釈した。一方、J. J. キャンポスら (Campos, J. J. et al., 1970) は、同様の手法で、心拍数の増加を指標として、深さに対する乳児の恐れを調べ、ハイハイによる自己移動開始後の乳児には、既に深さへの恐れが生じていると結論付けている。
2. R. L. ファンツ (Fantz, R. L., 1961) は、興味のある対象や好みの対象をより長く見つめるという、乳児の反応特性を利用し、選好注視法を開発した。この実験手法では、乳児に二つの視覚刺激を交互に一定時間提示し、その刺激を注視する時間の長短を測定する。彼の一連の研究により、乳児は複雑な図形よりも均質な図形を好むこと、生後間もない乳児の視力は弱い、生後 6 か月頃までに急速に視力の調整が行われることが明らかになった。
3. A. N. メルツォフと M. K. ムーア (Meltzoff, A. N. & Moore, M. K., 1977) は、乳児に対して舌出しや口の開閉を見せる実験を行い、生後 1 か月を過ぎると、乳児がその顔の動きを模倣し始めるという結果を示した。また、その後の研究で、乳児は顔図形に特に関心を示すが、顔全体よりも目鼻口といった各パーツの具体的形状に注目しやすく、各パーツが正しい位置に配置された顔模式図形と、各パーツがばらばらに配置された顔模式図形の弁別では、追視行動の頻度が変わらないことが明らかになっている。
4. 馴化－脱馴化法は、同じ刺激を繰り返し提示すると注視時間が減少し、その後、新奇刺激を提示すると注視時間が増加するという、乳児の反応特性を利用する実験法である。P. スターキーと R. G. クーパー (Starkey, P. & Cooper, R. G., 1980) は、この手法を用い、1 列に並んだドットの個数が変化する視覚刺激を提示し、乳児の数量の認知を調べた。その結果、5 か月齢児は、4 個と 6 個の個数の切替えでは脱馴化が生じなかったが、2 個と 3 個の切替えでは脱馴化が生じたことから、5 か月齢児には 4 より小さい数を弁別する能力があることが示された。
5. J. ピアジェの認知発達理論によれば、目の前の物が見えなくなってもその対象が存在し続けるという対象の永続性の認識は、生後 9 か月頃に獲得される。一方、彼の理論が、乳幼児の能力を過大評価していることを示唆する実験結果もあり、R. ベイラージョンら (Baillargeon, R. et al., 1985) は、乳幼児に見慣れた出来事と背反する状況を提示するストレンジ・シチュエーション法を用いた実験を行い、対象の永続性の認識は、2 歳以降に獲得され始めることを示した。

【No. 4】 古典的条件づけに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. J. B. ワトソンと R. レイナー (Watson, J. B. & Rayner, R., 1920) は、アルバートと呼ばれる幼児に対して、白ネズミを見せてから、金属製の棒とハンマーを用いて大きな音を鳴らした。その結果、1回の試行で、この幼児は白ネズミに対して、恐怖反応を示すようになった。その一方で、大きな音を対提示していない白ウサギに対しては恐怖反応を示さなかった。
2. 条件刺激と無条件刺激の提示順序から、延滞条件づけ、同時条件づけ、痕跡条件づけ、逆行条件づけに分類することができる。同時条件づけと痕跡条件づけは順行条件づけの一種であり、一般に同時条件づけや痕跡条件づけの方が延滞条件づけよりも条件反応が大きいとされる。
3. 恐怖条件づけ獲得後に、恐怖反応を引き起こす条件刺激と安心感を引き起こすような刺激を対提示することで、恐怖反応が減弱する現象があり、この現象を隠蔽(overshadowing)と呼ぶ。この現象を応用し、恐怖と相反する反応を引き起こす刺激を対提示する行動療法の技法としてエクスポージャー法がある。
4. 恐怖条件づけを獲得した後に消去の手続を行って、恐怖反応が出力されなくなってから時間が経過すると恐怖反応が再発する現象があり、この現象を復元効果(renewal effect)と呼ぶ。また、恐怖条件づけを消去した際の文脈とは異なる文脈において、条件刺激に対する恐怖反応が再発する現象もあり、この現象を自発的回復(spontaneous recovery)と呼ぶ。
5. 実験群に条件刺激Aと無条件刺激の対提示を行った後で、条件刺激Aと条件刺激Bと無条件刺激を対提示する。その結果、最初から条件刺激Aと条件刺激Bと無条件刺激を対提示した統制群よりも、条件刺激Bに対する条件反応が小さくなる現象を阻止(blocking)と呼ぶ。

【No. 5】 ダーク・トライアド(the dark triad)に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 自己愛的な傾向を持つ人は、自分に対する誇大な感覚を抱き、その誇大な感覚を維持するための対人的方略をとる。また、自分が特別扱いをされて当然だという特権意識が強い。こうした人物は権威や権力への指向性が強く、「周囲の人は自分のために動くのが当たり前だ」などと考えることもある。さらに、自己に対する否定的な反応には強い怒りや攻撃性を示す。
- B. マキャベリアニズムは、政治思想家マキャベリが『君主論』で述べたような考え方を持つ傾向である。具体的には自己利益のために他者を操作する傾向であり、自己利益のためならばどんな手段も正当化されると信じる。「他者を操作」とは、直接的に他者を害するとは限らず、場合によっては相手を褒めたり助けになることをしたりすることもある。
- C. サイコパシー特性は、共感性や罪悪感の欠如、衝動性、逸脱行動、魅力のなさなどの特徴が含まれるパーソナリティ傾向である。この傾向が強い人物は、ポジティブ感情の起伏は大きい、恐怖などネガティブ感情の起伏は小さく、罰や制裁を受けることに対して鈍感なために、社会的に好ましくない行動をためらいなく実行できると考えられる。
- D. ダーク・トライアドは、G. W. オルポートにより名付けられた、自己愛、マキャベリアニズム、サイコパシーの三つの特性を総称したものである。三つの特性に共通する対人スタイルとして、情緒的な冷淡さ、人をだますことなどが挙げられる。いずれの特性も、パーソナリティの5因子モデルの「親和性」が高いこと、6因子モデルの「正直さ－謙虚さ」が低いことと関連している。

1. A、B
2. A、C
3. A、D
4. B、C
5. C、D

【No. 6】 次は、パーソナリティ障害に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C
1. 否認	A群パーソナリティ障害	スキーマ療法
2. 否認	B群パーソナリティ障害	メンタライゼーション療法
3. 否認	C群パーソナリティ障害	弁証法的行動療法
4. 抑圧	A群パーソナリティ障害	スキーマ療法
5. 抑圧	B群パーソナリティ障害	弁証法的行動療法

【No. 7】 知能の PASS 理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. PASS 理論に基づくアセスメントである DN-CAS 認知評価システムは、適用年齢が 5 歳から 17 歳であり、再検査を実施することで予後を調べたり、認知機能の特徴と変化をみたりすることが可能である。解釈では、個人の認知機能の相対的に強い面と弱い面を評価することができ、発達に偏りのある場合に示される典型的なプロフィールも報告されている。
2. PASS 理論における四つの認知処理過程の一つとして、「同時処理」がある。これは、複数の構成要素を概観可能な一つの全体にまとめたり、全体から要素を自由に取り出したりといった機能を指す。A. R. ルリアが、ウェクスラー式知能検査の動作性知能の概念を援用させたもので、CHC 理論や、それを基にした KABC-II でも扱われている。
3. PASS 理論における四つの認知処理過程の一つとして、「ワーキングメモリー」がある。これは、課題の最中に必要な情報を保持し、他の情報に妨害されることなく、目標に向かって作業を遂行できる能力のことをいう。PASS 理論に基づく検査では、ウェクスラー式知能検査の WAIS-IV や WISC-IV では測定できなかったワーキングメモリーを測定できることに特徴がある。
4. PASS 理論における四つの認知処理過程の一つとして、「流動性知能」がある。これは、言葉や記号などの情報を素早く処理する能力で、新しい課題や場面への適応を要するときに使われるものであり、R. J. スタンバーグが、日常生活で使われる知能に着目して提唱した。流動性知能は、青年期から成人期まで伸び続けた後、加齢に伴い低下する。
5. PASS 理論における四つの認知処理過程の一つとして、「社会的知能」がある。これは、他者の感情や他者との関係を知覚し理解する力や、自分の内省を洞察しコントロールする力のことをいう。H. ガードナーの多重知能理論が発表された後、E. L. ソーンダイクが提唱した。社会的知能は、知能指数よりも、将来の成功や適応を強く予測することが近年の研究で示されている。

【No. 8】 自閉スペクトラム症と「心の理論」に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. S. バロン＝コーエンら(Baron-Cohen, S. et al., 1985)は、自閉症児、ダウン症児、定型発達児の3グループに誤信念課題を実施した。その結果、非自閉症グループの80%以上がこの課題を通過した一方、自閉症児に通過者がいなかったことから、自閉症児は心の理論を欠いているとする「心の理論障害仮説」を提唱した。心の理論の獲得の困難は、自閉症者に固有のものであり、社会的発達や他者の視点取得の困難を引き起こす要因の一つと考えられている。

イ. 定型発達児は、3歳になると、そのほとんどが誤信念課題を通過可能になるとされる。自閉症児でも、9歳頃を境目として、その5割がこの課題を通過できるようになることから、心の理論の発達に言語発達が関与している可能性が示唆されている。実際、自閉症児に心の理論に関する言語的トレーニングを行い、信念や誤信念などの概念を理解できるようになると、実生活での感情理解や他のソーシャルスキルの向上などにその効果が般化することが多く示されている。

ウ. 課題提示に言葉を一切用いず、行為者の行動を予測してそちらの方向を注視するといった自発的な非言語反応を調べると、定型発達の1、2歳児では登場人物の誤信念に基づいた行動を注視によって予測できることが示唆されている。しかし、通常の誤信念課題を通過するアスペルガー症候群の成人でも、非言語的誤信念課題では定型発達の2歳児がするような予期的な注視をせず、誤信念に基づく自発的な行動予測を行わないことが報告されている。

エ. 「心の理論の障害」のある自閉症児に見られる特徴の一つとして、模倣の特異性が指摘されている。画面に映る人の表情を見せ、その終了後に動画と同じ表情をさせる意識的模倣課題を行った結果、自閉症児は、定型発達児と異なり、意識的な模倣をすることが困難であった。一方、あくびをする動画を視聴しその回数を数える課題では、視聴中に思わずあくびをしてしまうあくびの伝染が定型発達児と同様に観察されており、自閉症児において、あくびのような生理的反応の伝染と、表情の伝染とが異なるメカニズムで生じている可能性が示唆されている。

1. ア
2. ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 9】 知的能力障害に関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

【No. 10】 社会適応に関わる性質や行動に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、診断基準は DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)による。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

【No. 11】 次は、社会的ジレンマに関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、表(ア)及び(イ)の数字は各個人が受け取る利益の大きさを意味する。

R. M. ドウズによれば、社会的ジレンマとは、集団状況において「協力」か「非協力」を選択する際に、個人としては を選択した方が好ましい結果が得られるが、集団としては全員が を選択した場合より、全員が を選択した方が好ましい結果が得られる状況を指す。社会的ジレンマの一つに二人間の囚人のジレンマがある。囚人のジレンマの利得行列は、以下の表(ア)と(イ)のうちの、 である。

表(ア)

		参加者 X	
		協力	非協力
参加者 Y	協力	2, 2	3, 0
	非協力	0, 3	1, 1

表(イ)

		参加者 X	
		協力	非協力
参加者 Y	協力	4, 4	3, 0
	非協力	0, 3	2, 2

社会的ジレンマの代表例としては、G. ハーディンが報告した があり、資源問題に関連付けて論じられる。R. アクセルロッドは、同じ二者間で繰り返し囚人のジレンマを行う場合において、どのような戦略が有効か検討した。その結果、 が有効であることを明らかにした。

A	B	C	D	E
1. 協力	非協力	(ア)	社会的手抜き	協力維持戦略
2. 協力	非協力	(イ)	共有地の悲劇	応報戦略
3. 非協力	協力	(ア)	共有地の悲劇	応報戦略
4. 非協力	協力	(ア)	社会的手抜き	協力維持戦略
5. 非協力	協力	(イ)	共有地の悲劇	先手非協力戦略

koumuin-saiyo.jp

【No. 12】 次は、嘘^{うそ}の検出に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

A	B	C	D
1. deception	truth	avert their eyes	liar
2. deception	truth	make eye contact	truth teller
3. deception	lies	avert their eyes	truth teller
4. conscientiousness	truth	avert their eyes	truth teller
5. conscientiousness	lies	make eye contact	liar

koumuin-saiyo.jp

【No. 13】 A. T. ベックに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 彼の研究グループは、うつ病患者とうつ病に患していない者の思考を比較し、抑うつ認知モデルを提唱した。このモデルでは、「認知」を、自動思考、推論の誤り、スキーマの三つに分ける。自動思考は、幼少期から形成された潜在的な信念であり、自動思考が活性化されると、それに続いて推論の誤りやスキーマが生じる。また、推論の誤りの一つである「破局視」とは、状況を連続体ではなく、「成功か失敗か」といった二つの極端なカテゴリーで捉えることを指す。
- B. 彼は、うつや不安といった感情障害は、個人に特有の思考様式によって規定されると考え、認知療法を提唱した。うつ病の認知療法では、自己・世界・将来の3領域に対する否定的な認知への介入を目的とし、一般に、行動的介入は行わない。また、認知療法の技法の一つである認知的概念化は、「今、この瞬間に判断を加えずに、意図的に注意を向けること」を通して、自身の思考や感情をそのままに認識し、受け入れることを目的としている。
- C. 彼は、認知的介入の技法の一つとして、認知再構成法を考案した。この技法では、思考記録表やソクラテス式質問法などを用いて、クライアントが自身の力で、より適応的で現実的な認知を見付け、不快感情を適正化できるようになることを目指す。認知療法では、単にセラピストがクライアントに問題の解決方法を伝えるのではなく、セラピストとクライアントがチームとなり、根拠を持って問題解決に当たろうとする、協働的実証主義(collaborative empiricism)の態度を原則とする。
- D. 彼の研究グループは、うつ病のアセスメント法として、ベック抑うつ質問票を作成した。この質問票の特徴として、評価の客観性を担保する観点から、面接者による他者評定式を採用している点が挙げられ、質問に対するクライアントの回答内容について、面接者が採点基準に従って得点を付ける。この検査は、いわゆるスクリーニング検査として位置付けられるもので、重症度の評価は行わない点に留意が必要である。

1. A
2. C
3. A、B
4. B、D
5. C、D

【No. 14】 描画法による心理アセスメントに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 家族描画法は、W. C. ハルスの実践を基にした技法であり、開発初期は、描かれ方が静的になりやすく、家族の身長や続柄などの社会的順序が反映されやすいという欠点があった。その後、R. C. バーンズとS. H. カウフマンが開発した動的家族画法では、「あなたを含めて、家族が何かしているところを描いてください。」という教示を行うことによって、より力動的かつ多面的な解釈ができるようになった。
- B. 風景構成法は、山中康裕によって開発された。実施時には、川→山→田→道→家→木→人→花→動物→石→他に描き加えたいものの順で、形式張らず、相手がのびのびと表現できるように、自然な口調で描くべきアイテムを提示していく。箱庭療法は、このような風景構成法を立体化したものであり、風景構成法へ導入するための予備検査として広く使われている。
- C. バウムテストは、K. ポーランダーが初めて実施法を体系化した。初期の実施時の教示としては、「実のなる木を1本描いてください。」「木を1本描いてください。」などが挙げられる。また、描画の結果は多義的であるため、安易に指標や類型に当てはめるような解釈はせず、描線の様子や部分の描き方などの細部から木の全体へと解釈を進めていくことが一般的である。
- D. HTP法は、J. N. バックによって発表された、「家」、「木」、「人」を描かせる技法である。各課題について、「家」には、描き手の家庭状況・生活や家族関係、対人関係などが表れやすい。「木」には、防衛が機能しにくく、より無意識的な自己像や抑圧された感情が投映されやすい。「人」には、より意識的な自己像・自己概念が表れやすいといった傾向がある。

1. A
2. B
3. A、D
4. B、C
5. C、D

【No. 15】 応用行動分析に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 応用行動分析では、三項随伴性に基づく ABC 分析を行う。応用行動分析における ABC 分析は、Activating event(出来事)、Belief(信念)、Consequence(結果)の頭文字をとったものであり、行動が引き起こされる背景となる信念について分析を行う。
2. 複数の反応や動作がつながって、一つの行動が構成されることがある。こうした行動を形成するには、その行動の構成要素をつなげる連鎖化(chaining)を用いる。強化子が伴う最後の行動から後ろ向きに連鎖する場合を逆行連鎖と呼ぶ。
3. 行動への即時強化が難しい状況において、簡易に使える一次強化子であるトークンを用いて行動を強化するトークンエコノミー法が使われることがある。トークンに用いられるのは、シールやポイントなどがある。行動を減らす場合には、減らしたい行動後にトークンを一時的に除去する分化強化を用いる。
4. 環境内の弁別刺激が行動を喚起できていない場合に、レスポンドと呼ばれる行動生起確率を高める補助的な刺激を提示することがある。また、補助的なレスポンドがなくても、環境内にある弁別刺激だけで行動が維持できるようにするために、徐々にレスポンドを減らし弁別刺激に近付ける方法を逐次接近法と呼ぶ。
5. 行動すると刺激が出現することで、行動が増加する場合は、正の強化と呼ぶ。行動すると刺激が消失することで、行動が減少する場合は、負の強化と呼ぶ。行動すると刺激が出現することで、行動が減少する場合は、正の罰と呼ぶ。行動すると刺激が消失することで、行動が増加する場合は、負の罰と呼ぶ。

【No. 16】 C. R. ロジャーズのカウンセリングの考え方に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 指示的なアプローチと非指示的なアプローチを比較検討した上で後者を支持し、クライアントと意を異にせず受身的に同意することを重視した。また、カウンセリングにおいては、クライアントの自由な表現を促すことが重要であり、責任や時間、攻撃行動等に関し明確な制限を設定することを作為的で不必要なこととして批判した。
2. カウンセリングにおいて習得が最も難しいスキルとして、話の知的な内容だけに注意を傾けるのではなく、表現されている感情に注意を払いながら応答する技術を挙げた。この際、セラピストは、クライアントが既に表明した情動的態度に応答する必要がある、クライアントの抑圧された態度を指摘することはクライアントにとって強力な脅威になりかねないと指摘した。
3. カウンセリングにおいて、クライアントの全体像を把握するために、クライアントの完全な事例史を収集することを重視した。クライアントが、自分の事例史をセラピストに話し、それがセラピストに受け取られることを繰り返す中で、問題の解決の責任がクライアント自身にあると感じられるようになるとし、その治療上の有効性や可能性を指摘した。
4. カウンセリングで用いられてきた諸技術の有効性を検討し、「命令」と「禁止」は効果的でないと批判した。一方、「目標を達成する」、「盗みをやめる」といった「誓約」や「約束」は、人の良心や誠意を賦活し望ましい変化をもたらし、「良くなってきている」、「改善しつつある」といった「承認」や「励まし」の言葉は、クライアントの動機づけを高めると考えた。
5. パーソナリティの変化をもたらす条件の一つとして、「無条件の肯定的関心」を挙げた。セラピストが、クライアントを否定することなく、その良い面を肯定することにより、クライアントが受け入れられている実感につながるとし、セラピストがクライアントに対し否定的な感情を抱いたり、それを表出したりすることは避けるべきだと考えた。

【No. 17】 認知症に関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

【No. 18】 摂食障害に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、診断基準は DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)による。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

【No. 19】 あなたは、地域住民の犯罪に対する忌避感が刑務所出所者等の再犯に影響するのかどうかを検証するために、新たに犯罪忌避感尺度を開発することにした。犯罪忌避感尺度の開発に当たり、A～Dの妥当性を以下の方法で検討した。A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- A** : 犯罪の忌避感を測定する質問項目を多数作成し、それらが犯罪への忌避感を測っているように見えるかどうか、用意した項目では測れていない側面はないかどうか、犯罪心理学など関連領域の複数の専門家に確認した。
- B** : 作成した犯罪の忌避感を測定する質問項目を用いて、地域住民に調査を実施し、得られた回答に対して確証的因子分析を行った。しかし、適合度指標からデータへの適合が低いことが示されたので、探索的因子分析を行った。結果として、当初想定していた2因子モデルが採択された。
- C** : 過去に行われた研究から抽出した再犯に影響する地域住民側の変数に、犯罪忌避感尺度の測定結果を追加したところ、決定係数が有意に変化した。
- D** : 犯罪忌避感と他の構成概念間の関係を考えると、犯罪に対するリスク知覚は犯罪忌避感とは異なる概念であり、関連は弱いと予想される。両尺度の測定結果をみたところ、犯罪忌避感尺度の得点と犯罪に対するリスク知覚の得点の相関係数は低く、関連は弱いと判断した。

A	B	C	D
1. 内容的妥当性	因子的妥当性	予測的妥当性	差異妥当性
2. 内容的妥当性	因子的妥当性	増分的妥当性	弁別的妥当性
3. 内容的妥当性	交差妥当性	増分的妥当性	差異妥当性
4. 生態学的妥当性	因子的妥当性	予測的妥当性	弁別的妥当性
5. 生態学的妥当性	交差妥当性	併存的妥当性	差異妥当性

【No. 20】 次は、因子分析に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

因子分析とは、複数の項目間の相関関係に基づいて共通部分を抽出する方法である。

因子分析における共通性の推定方法にはいくつかの種類がある。推測統計上望ましいという点から **A** が良い方法といわれるが、サンプルサイズが小さかったり、データが正規分布から大きく外れていたりすると、因子負荷量が1.0を超えるような数学的におかしい答え(不適解)を出すことがある。

探索的因子分析において、因子数を決める際の基準はいくつかある。例えば、固有値の大きさが1.0以上の因子のみを採用するというガットマン基準や、固有値を折れ線グラフにしたスクリープロットを見て、固有値が相対的に **B** までの因子数を妥当な因子数とみなすスクリー基準などがある。この他に、因子の解釈可能性を考慮することも重要である。

因子の解釈をしやすいするために、因子軸を回転することがある。回転方法には、大きく分けて直交回転と斜交回転とがある。直交回転は、因子間の相関がないことを前提とした回転であり、例えば **C** がこれに当たる。斜交回転は因子間の相関を想定した方法で、軸が必ずしも直角に交わっていなくてもよいと考える方法である。

斜交モデルの因子分析では、座標の読み取り方が2種類考えられるため、因子パターンと因子構造という二つの結果が出てくる。解釈に際しては、より理解しやすいという見地から、因子パターンを見て **D** を解釈することが多い。

A	B	C	D
1. 主成分法	大きく下がる手前	プロマックス回転	因子負荷量
2. 主成分法	大きく下がる手前	プロマックス回転	相関係数
3. 主成分法	大きく下がった後	クォーティマックス回転	因子負荷量
4. 最尤法	大きく下がる手前	クォーティマックス回転	因子負荷量
5. 最尤法	大きく下がった後	プロマックス回転	相関係数

No. 21～No. 60

(矯正心理専門職区分)

No. 21～No. 60 は**選択問題**です。これらの問題のうちの任意の20題を解答してください。

なお、20 題を超えて解答しても、超えた分については採点されません。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 21～No. 60 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

koumuin-saiyo.jp

【No. 21】 ニューロン(神経細胞)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ニューロンは、グリア細胞とともに脳を構成する細胞であり、樹状突起、細胞体、軸索から成り立つ。軸索の終末部から神経伝達物質が放出されると、シナプスを通して、他のニューロンがもっている受容体という特殊なタンパク質と結合し、そのニューロンを興奮させたり、伝達物質によっては抑制したりする。
2. 大脳は、左右の半球によって構成されている。その表面は、ニューロンが詰まった厚さ約3ミリメートルの薄い層でできており、大脳基底核と呼ばれる。大脳基底核のうち、海馬や帯状回、系統発生的に新しい部分であり、扁桃体などの大脳半球内部の核と合わせて、大脳新皮質というシステムを構成している。
3. ニューロンが興奮していないときは、細胞膜の内側はマイナス、外側はプラスに荷電した分極状態に保たれている。別のニューロンから刺激を受けると、細胞膜の外側から内側にカルシウムイオンが流入し、細胞膜の内側がプラスの電位に変化する。この膜電位の変化は、活動電位と呼ばれ、プレグナントの法則に従い、閾値以上の電位が生じると一定の大きさで生じる。
4. 軸索には、髄鞘^{しゅう}という膜で覆われている有髄線維と、膜をもたない無髄線維とがある。また、髄鞘と髄鞘の間の軸索がむき出しの部分はチャックと呼ばれる。活動電位が髄鞘を飛び越えて伝わることを跳躍伝導といい、有髄線維に比べて、無髄線維は、跳躍伝導が起きないために直線的に活動電位が伝わり、活動電位の伝達速度は速くなる。
5. 脳は、ニューロンの細胞体が多く含まれ白色に見える白質の部分と、髄鞘化された軸索が多く含まれ灰色に見える灰白質の部分に分けられる。ニューロンの細胞体が塊状を成して集合した白質を神経核といい、灰白質の深部に位置している神経核群である蝸牛には、線条体や黒質が含まれ、運動の制御に関連する。例えば、黒質ドーパミン作動性ニューロンの脱落は、パーキンソン病を引き起こすとされる。

【No. 22】 欲求に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 欲求階層説を提唱した N. E. ミラーは、人は自己実現に向かって成長するという人間観に基づいて、欲求を低次の欠乏欲求と高次の成長欲求に階層化して分類した。この説では、欠乏欲求の下位分類として、低次の方から順に、安全欲求、生理的欲求、所属と愛の欲求、承認欲求があり、より高次の成長欲求は、自己実現欲求に対応する。基本的に低次の欲求ほど強く、その充足行動が優先され、それが達成されるまではより高次の欲求は抑制される。
2. 個人の中で、二つ以上の目標が競合し、どの行動を取ればよいか選択できない状態を葛藤という。K. レヴィンは、ヒトや動物を目標に対して接近させたり、回避させたりする環境内の対象の性質を向性と呼び、向性の正と負の組合せにより、葛藤を三つの型に分類した。例えば、交際相手からプロポーズされたが、相手の中に好きな面と嫌いな面がそれぞれ複数あり、なかなか決断することができない状態は、「二重接近－回避型葛藤」と呼ばれる。
3. 欲求は動物として生得的に備わっている基本的な一次的欲求と、学習によって後天的に獲得される二次的欲求に大別される。一次的欲求の中でも、生命維持に関する欲求について、W. B. キャノンとは、生物がその生命の維持に必要な身体内部の恒常的な平衡状態を回復させるために行動が生起するというホメオスタシスの原理を提唱した。一方、C. L. ハルは、行動によってホメオスタシスが満たされ、動因が低減されることが行動を強化するという動因低減説を唱えた。
4. 欲求－圧力理論を提唱した M. ローウェンフェルドは、人の行動は、脳の生理学的な過程としての人の欲求の力動的な働きによろし、それが現れるときの環境的な諸条件を圧力と呼んで、パーソナリティはこの欲求と圧力との相互作用によって、体系的に形成されていくと考えた。さらに、P-F スタディという投影法検査を開発し、分析・解釈の方法として欲求－圧力分析を用意したが、この方法以外にも、多様なアプローチが並存している。
5. 人が欲求不満や葛藤、不安や緊張などに直面して心理的な安定が崩れ、パーソナリティや自我を脅かす不均衡状態となったときに、心理的な安定の維持・回復を図るために意識的に取る様々な心の動き及び心理的手段を防衛機制という。C. G. ユングが提唱した防衛機制には、補償、置き換え、退行などがあり、人が社会に適応していく上で、健常者によっても用いられるとされる。

【No. 23】 感情に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. P. バードは、刺激によって生理的覚醒が生じると、環境内の手掛かりを利用し、その生理的覚醒の原因を解釈することで、多様な感情体験が生じるとする中枢起源説を主張した。これに対し、W. ジェームズは、単純接触効果の実験から、感情の生起に認知的な評価は不要であるとする末梢起源説を主張し、両者間の論争が起きた。

イ. R. B. ザイアンスは、緊急事態では、潜在記憶の働きによって、状況が様々でも同じような身体反応が生じることや、動物の脳の特定の部位を破壊すると感情反応が消失することから、脳が刺激を知覚することで、感情体験と身体反応が同時に惹起^{じゃっき}されると主張した。また、この理論を拡張し、P. I. ヤコブレフは、海馬を起点とした回路で感情が生じるとする情動回路を主張した。

ウ. A. R. ダマシオは、腹内側前頭前皮質が、過去の記憶から刺激状況と情動を関連付け、「良い」か「悪い」かの価値を帯びた身体反応を生じさせるシグナルを出力し、行動選択を導くとするソマティック・マーカー仮説を主張した。彼は、身体ループ(body loop)に加えて、疑似的身体ループ(as-if body loop)を想定し、過去に経験した状況を想起するだけで、疑似的な身体変化が再現されるとした。

エ. R. S. ラザラスは、「温かいー冷たい」と「満足ー不満足」の二次元で表現される状態をコア・アフェクトと呼び、これが感情現象の核心をなすと主張した。コア・アフェクトは、外界からもたらされる感覚情報と、内受容感覚としてもたらされる体内の情報により形成される。P. エクマンは、この感覚が意識化されたときに、幸福、怒り、驚き、恐怖の四つの基本感情が経験されると主張した。

1. ア
2. ウ
3. ア、イ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 24】 パーソナリティの特性論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. G. W. オルポートと H. S. オドバートは、人の行動や態度を表す単語を自由記述する調査を大学生に実施し、約 1 万 8,000 語を特定した。さらに、そこから抽出したパーソナリティを記述する約 4,500 語に対して、因子分析を行って、パーソナリティの 7 因子のモデルを提案した。
2. E. クレッチマーは、18 世紀から 20 世紀はじめまでの文献からパーソナリティ特性用語を抜き出し、171 個の形容詞に整理した。そして、整理した 171 個の形容詞について因子分析を実施し、13 個の特性を特定した。これにビッグスリー因子を加えた検査が、16 個の特性から成る 16 PF 人格検査である。
3. J. P. ギルフォードは、パーソナリティを表す特性用語を用いた語彙アプローチではなく、因子分析を用いて性格検査を作成し、そこからパーソナリティ特性として 13 個の因子を抽出した。また、矢田部達郎らは、ギルフォードの性格検査の日本語版として、12 因子に簡略化した YG 性格検査を作成した。
4. H. J. アイゼンクは、因子分析を通して、外向性、神経症傾向、誠実性の 3 因子から成るパーソナリティモデルを提案した。アイゼンクは、自身のパーソナリティモデルに基づく性格検査として MMPI を作成した。
5. R. R. マックレーと P. T. コスタは、ビッグファイブモデルを提案し、それを測定する検査として、TEG を作成した。TEG は、各質問文に対して、どの程度自分自身に当てはまるかを自己報告する形式であり、神経症傾向、外向性、精神病質傾向、調和性、誠実性が測定される。

【No. 25】 E. H. エリクソンの心理社会的発達理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. H. エリクソンは、パーソナリティを一生を通して発達するものと捉え、ライフサイクルを七つの発達段階に分類した。彼は、精神分析的発達理論の視点に加えて社会的・対人的な側面からパーソナリティを捉え、各発達段階における心理社会的危機(発達課題)を見いだした。中でも最も初期の「乳児期」における心理社会的危機は、「自律性 対 恥・疑惑」である。
2. 「児童期」における心理社会的危機は、「自主性 対 罪悪感」であり、学校教育を受け、外界への関心を高め、知識・技能の習得や社会的役割の理解に努める。ここで獲得される心理的活力(強さ)は、「意志」である。この時期に勉強や課題がうまくできないことが重なると、混乱や強迫行動が表出し、罪悪感が生じる。
3. 「青年期」における心理社会的危機は、「同一性 対 同一性拡散」であり、「自分とは一体何者だろうか」という問いへの解答を模索する時期とされる。E. H. エリクソンは、自我同一性の達成状況(同一性地位)を、「早期完了」、「同一性拡散」、「最適化」、「モラトリアム」、「同一性達成」の五つに分類した。
4. 「前成人期」における心理社会的危機は、「生殖性 対 停滞」である。獲得される心理的活力は、「世話(ケア)」であり、後進を導いたり、創造的な仕事をしたりすることを通じて、次世代に関心を向け、社会に貢献することにより世代継承性を高めることが重要とされる。
5. 「老年期」における心理社会的危機は、「自我の統合 対 絶望」であり、この危機を乗り越える過程で「英知」が獲得され、その結果、人生に意義と価値を見いだすという。E. H. エリクソンは、人が老年期を迎え、人生を想起し、回想することが、人生の統合を達成する上で助けになるとした。

【No. 26】 乳幼児の発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生後2か月頃になると、「アウ」、「グー」、「クー」などのジャーゴンを発して養育者とターンテイクを行うようになる。生後4か月以降になると、「アー、アー」、「バババ」といったクーイングが生じ、手足の動きとクーイングが同期するようになる。さらに、月齢が進むにつれて表出言語数は増えていき、5歳頃に語彙の爆発的増加が生じる。
2. 指差しによる他者の注意の誘導など、他者との間で対象に関する共同注意が獲得されるのは、3歳以降とされ、「自己」、「他者」、「対象」から成る三項関係のコミュニケーションが可能になる。このような劇的な変化を、M. トマセロは、3歳の革命と呼んだ。共同注意の一つとして、新奇な又は曖昧な出来事に遭遇したときに、養育者などの感情表現から情報を得ようとするソース・モニタリングが生じる。
3. 実行機能は、抑制、切り替え、更新、失認の4要素から構成される。L. コールバークは、動機づけや情動的な場面の動きに注目する実行機能を測るために、「期待はずれのプレゼント」課題を設定した。その結果、3、4歳児でも、期待はずれのプレゼントを受け取ったときに、プレゼントの送り主の前で感情表出を制御することが明らかになった。
4. J. ピアジェは、モデルとなる動作を見た後、しばらく経った後でもその動作を模倣する延滞模倣が、感覚運動期の後期に出現するとし、延滞模倣を表象の発生と関連付けた。脳機能の研究では、模倣や情動的共感が脳のミラーニューロンシステムと関連している可能性が指摘されている。
5. S. フロイトは、心理・性的発達理論を主張し、発達段階の特定の時期に問題が生じた場合、その時期への固着が生じると考えた。また、性的関心が異性の親へ向く4～6歳の時期を男根期と呼び、この時期の男児は、その罪悪感からエレクトラ・コンプレックスを抱くとした。この時期は、J. ピアジェの認知発達理論における形式的操作期に含まれる。

【No. 27】 ステレオタイプに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. ステレオタイプとは、社会的カテゴリーや集団に関する単純化されたイメージのうち、特にネガティブなものを指す。ステレオタイプは差別や紛争などの深刻な社会問題に関わるため、社会心理学の中では古くから中心的な研究対象であった。近年は、ステレオタイプは低減できないという前提の下に、その形成や維持に関わる認知過程が研究されている。
- B. 社会的カテゴリー化がなされると、同じ社会的カテゴリーに属する人どうしは実際以上に似ているかのように、逆に異なるカテゴリーに属する人はより異なっているかのように錯覚される。前者はカテゴリー内の同化効果、後者はカテゴリー間の対比効果と呼ばれる。こうしたカテゴリー化の効果がステレオタイプの源泉となっている。
- C. 社会的カテゴリー化に、自分の属している内集団と、他者だけで構成される外集団という区別が加わると、多くの場合、内集団の人どうしの類似性が外集団の人どうしの類似性よりも高く知覚される。そして「私たちは優れている」などのポジティブな認知をしやすくなり、頻繁に見られるポジティブな性質と内集団を実際以上に結び付けようとする錯誤相関が生じる。
- D. ある社会的集団に対するステレオタイプ(例えば「○○カテゴリーの人は乱暴だ」という認知的要素に、「○○は乱暴だから嫌い」といった感情的要素が加わったものが「偏見」であり、さらに観察可能な行動を伴ったものが「差別」である。現存する偏見や差別の根底には、集団に対する画一化されたイメージとしてのステレオタイプが存在する。

1. A
2. C
3. A、D
4. B、C
5. B、D

【No. 28】 次は、ある心理的アプローチに関する記述であるが、 に当てはまるものとして最も妥当なのはどれか。

なお、三つの には同一の心理的アプローチの名称が入る。

W. R. ミラーと S. ロルニックによって提唱された は、クライアントの中にある準備性、両価性、抵抗の感情を探り、それらを解決できるように援助することで、クライアントの行動変容を促すことを目的としたクライアント中心的なカウンセリングスタイルを指す。

に必要な四つの基本的スキルには、「開かれた質問」、「是認」、「聞き返し」、「要約」がある。これらのスキルを用いて、クライアントから変化への決意を表明する言葉(チェンジ・トーク)を引き出していくことが重要とされる。

は、問題飲酒行動に対するアプローチが起源である。以後、治療エビデンスが蓄積され、疾患や領域を問わず、対人援助場面において推奨される面接法の一つとして注目されており、司法領域にも応用されている。

1. アクセプタンス&コミットメント・セラピー
2. クライアント中心療法
3. 動機づけ面接
4. マイクロカウンセリング
5. 問題解決療法

【No. 29】 DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における、大麻関連障害群に関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

koumuin-saiyo.jp

【No. 30】 次は、ある大学の心理学部に所属する学生が提出した卒業研究の研究計画及びそれに対する大学教員のコメントである。各コメントにおけるA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

○研究計画

【研究テーマ】 大学生の共感性と評価懸念が、ボランティア活動への意欲に及ぼす影響

【調査対象者】 X大学の心理学部に所属する学生

【調査内容】 共感性、評価懸念、ボランティア活動への意欲を測定する心理尺度を用意し、学生たちに自己記入式の調査票を配布して回答を求める。

○大学教員のコメント

- ・ 調査対象者が心理学部の学生のみとなっている。本来、大学生一般を対象としているのに、心理学部の学生のみが調査対象となることで、**A**が生じ、調査結果が歪む可能性がある。大学生一般を調査対象とするのであれば、調査対象者の所属学部や学年などの属性に偏りが生じないように調査した方が良いのではないか。
- ・ ボランティア活動への意欲は、共感性や評価懸念以外にも、過去のボランティア経験の回数やボランティアを行う友人の数などの影響も受けられる。このように、設定した独立変数以外に、従属変数に影響を及ぼす可能性のある変数を **B** と呼ぶ。この変数を統制して分析を行うために、調査内容に、ボランティア活動への意欲に影響することが予想される他の変数を確認する項目を設けた方が良いのではないか。
- ・ 今回の研究の心理尺度の測定においては、一つの質問文に対して、「全く当てはまらない」、「非常に当てはまる」のように選択肢を複数個用意し、その中から、質問文への賛同の程度を一つ回答させる手法である、**C** を使用すると良い。ただし、測定に当たっては、例えば、中間値である「どちらとも言えない」を選びやすくなる中心化傾向や、社会的望ましさによる回答バイアスなどが生じることもあり、質問文の言い回しや質問の順番などを工夫する必要がある。
- ・ 研究テーマと変数の性質に合わせて、分析手法を選ぶ必要がある。今回の研究テーマの場合、独立変数が二つ、従属変数が一つであり、いずれも量的な変数であるから、分析手法としては、**D** が適している。

A	B	C	D
1. 選択バイアス	ダミー変数	リッカート法	t 検定
2. 選択バイアス	ダミー変数	SD 法	重回帰分析
3. 選択バイアス	剰余変数	リッカート法	重回帰分析
4. 対応バイアス	ダミー変数	SD 法	メタ分析
5. 対応バイアス	剰余変数	リッカート法	t 検定

koumuin-saiyo.jp

【No. 31】 J. ロックの教育思想等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 教育の方法には、管理・教授・訓練の三つの領域があるとし、それらの理論化に努めた。知的教授の目的を道徳性の陶冶に求める「教育的教授」を唱え、明瞭・連合・系統・方法という四つの形式的段階に沿った教授法を構想した。
2. 医師として知的障害児の教育に関心を持ち、貧民地区に「子どもの家」を創設した。また、幼児期を「感覚期」と捉え、感覚運動能力の育成こそ、人間のあらゆる能力の発達の基礎であるとし、感覚訓練を重視した。
3. 生涯を民衆教育に捧げたことから、民衆教育の父とも呼ばれた。教育の目的を、知識・技術・道徳の三つの基礎陶冶による人間の調和的育成に求め、その方法として「直観」、「自発活動」、「労作と学習の結合」を重視した。
4. 人間の知識や観念は経験に由来し、生まれたときは全くの白紙状態であるとする「白紙説(タブラ・ラサ)」を唱え、人間の能力や道徳性は身分や血統に由来するものではなく、教育によって決まると主張した。
5. 南フランスで発見された「アヴェロンの野生児」と呼ばれる少年の教育、指導を行った。本少年の教育過程で聴覚障害のもたらす問題の大きさに気づき、聴覚検査の器具を考案するなどその後の知的障害児教育や幼児教育に大きな影響を与えた。

【No. 32】 我が国の教育に関する人物についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 林羅山は、徳川家康以降 4 代の将軍に仕え、文書行政等を担った。朱子学を信奉し、君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友の五倫の実践に至る過程に教育の意義を認め、彼が開いた家塾は後に江戸幕府直轄の昌平坂学問所となった。
2. 貝原益軒は、蘭学者であるとともに医学者でもあり、『解体新書』において西洋から取り入れた教育思想や医学の専門的な知見を示した。また、実用の学問としての蘭学を広く教授するため、大阪に適塾を開設した。
3. 石田梅岩は、家塾である松下村塾において、共に学び合うことを重視した教育活動を展開した。学びの実践を志向した政治的行動により投獄されることを繰り返したが、その獄中においても共同学習の形態の教育を実践し続けた。
4. 荻生徂徠は、長崎に鳴滝塾を開設し、人材育成のための教育に注力した。そこでは、キリスト教の精神に立って、良心や自立・自治の精神を尊重した人間の形成を重視することを教育理念として掲げた。
5. 本居宣長は、貴族社会やその社会における貴族の心を具体的に描写するため、光源氏を主人公とする『源氏物語』を創作した。これにより国風文化の形成に大きく寄与し、その伝達・普及の拠点として江戸に弘道館を開設した。

【No. 33】 次は、令和4年12月末日現在の少年法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

少年法は、少年の健全な育成を期し、非行のある少年に対して性格の矯正及び環境の調整に関する を行うとともに、少年の刑事事件について特別の措置を講ずることを目的としている。少年法において、「少年」とは、 に満たない者をいうと定められている。

裁判所は、非行少年に対する調査・審判を行い、非行があると認めるときは、教育的な働き掛けも行いながら、少年が非行に至った原因などを検討し、その少年にとって最も適切と考えられる処分を決定する。ここでいう審判に付される非行少年とは、①14歳以上で罪を犯した犯罪少年、②刑罰法令に触れる行為をしたが、その行為の時14歳未満であったため法律上罪を犯したことにならない触法少年、③保護者の正当な監督に従わないなどの不良行為があり、その性格や環境からみて、将来罪を犯すおそれのある に大別される。また、 には、保護観察や少年院送致などがある。

	A	B	C	D
1. 保護処分		20 歳	家庭	ぐ犯少年
2. 保護処分		20 歳	地方	特定少年
3. 保護処分		18 歳	家庭	特定少年
4. 刑事処分		20 歳	家庭	特定少年
5. 刑事処分		18 歳	地方	ぐ犯少年

【No. 34】 教育社会学に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. R. コリンズは、葛藤理論の立場から、教育の拡大は、社会の中でより優位な地位を占めようとする、身分集団間の葛藤によって生じるとした。また、『資格社会』を著し、雇用に当たり、支配的な集団の文化への社会化の程度を示す指標として学歴が求められると指摘した。
- イ. J. S. コールマンは、『脱学校の社会』を著し、学習することと学校に入学することとを混同させる「価値の制度化」が行き渡り、学校教育制度が人々の学習を独占する社会を批判した。そして、このような社会において、人々は自ら学ぶ力を奪われることになる」と指摘した。
- ウ. R. P. ドーアは、『高学歴社会の大学』を著し、社会における高等教育の発展段階について、当該年齢人口に占める学生の比率から、「エリート段階」、「マス段階」、「ユニバーサル段階」の三つに分類した。
- エ. P. ブラウンは、子供自身の努力と能力で学校や社会での成功が決まるのではなく、親の経済力と子供の教育への期待感、どのような教育を選んで子供に提供するかという親による選択が重要になっている」と指摘し、これを「ペアレントクラシー」とした。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 35】 次は、SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)及びESD (Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育)に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

SDGs は、「」社会の実現を目指し、2015 年の国連サミットにおいて国際社会全体の目標として採択された。これは、2030 年を期限とする包括的な 17 の目標及び 169 のターゲットにより構成されている。

このうち、我が国が提唱した ESD は、目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット 4.7 に位置付けられた。ESD は、まさに の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育である。今まで我が国では、 憲章に示された理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校である「 スクール」を推進拠点と位置付け ESD を推進してきたが、2020 年度から順次実施されている において、ESD の理念が組み込まれ、これからは全ての学校において ESD が推進される必要があるとされている。

A	B	C	D
1. 超スマート	開発途上国	ユネスコ	学習指導要領
2. 超スマート	開発途上国	OECD	教育勅語
3. 超スマート	地球規模	ユネスコ	教育勅語
4. 誰一人取り残さない	開発途上国	OECD	学習指導要領
5. 誰一人取り残さない	地球規模	ユネスコ	学習指導要領

【No. 36】 我が国における困難を有する子供・若者の支援等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 文部科学省は、教育、福祉、保健、医療、雇用といった分野の関係機関との連携の下でひきこもりに特化した相談窓口としての機能を担う「地域生活定着支援センター」を設置している。また、ひきこもり支援をバックアップする主体として特別支援学校を指定している。
2. 文部科学省は、不登校児童生徒が民間施設など学校外の機関で指導等を受ける場合について指導要録上「出席扱い」とすると不登校を長期化させることになるため、学校外の機関への通所や入所については「出席扱い」としないよう通知している。
3. 文部科学省は、学校による不登校児童生徒の家庭への働き掛けは、プライバシー保護の観点から原則として家庭訪問は行わず電話連絡を基本とすることとし、電話連絡等をしていても児童生徒の安否が確認できない等の場合は、初動として直ちに警察に捜索願を出すよう通知している。
4. 厚生労働省は、若年無業者等の支援のために「地域若者サポートステーション」を全国に設置し、キャリアコンサルタントなどによる個別相談や支援計画の作成、個別・グループによる就労のためのプログラムなどのサービスを、原則無料で受けることができるようにしている。
5. 法務省は、少年院においては、在院者それぞれの非行に応じた指導を集中的に行う必要があることから、義務教育段階の教科学習や高等学校卒業程度認定試験を行わないこととし、薬物、性非行、暴力、交通などの特定の生活指導を実施している。

【No. 37】 学校給食及び食育に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 学校給食法では、学校給食に従事する職員の給与などの人件費や、学校給食の実施に必要な施設及び設備の修繕費は、所得に応じて各児童生徒の保護者が負担しなければならないとしている。
- B. 平成16年に学校給食法等を一部改正したことにより栄養教諭制度が廃止され、その翌年から、小学校においては養護教諭、中学校及び高等学校においては家庭科の教諭が、それぞれ「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体のものとして行うことになった。
- C. 食育基本法では、食育推進運動について、国民、民間団体等の自発的意思を尊重し、地域の特性に配慮し、地域住民その他の社会を構成する多様な主体の参加と協力を得るものとするとともに、その連携を図りつつ、あまねく全国において展開されなければならないとしている。
- D. 学校と地域の連携・協力関係の構築にも寄与するとして、地場産物を学校給食で活用する取組が進められており、文部科学省の調査*によると、学校給食における地場産物の使用割合の全国平均は、金額ベースで5割を上回っている。

* 「令和3年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査」

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. A、D
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 38】 学校運営協議会制度に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 学校運営協議会とは、学校ごとに設置される協議組織であり、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みと位置付けられている。
- B. 学校運営協議会は、学校教育法において、国公立を問わず全ての学校の学校長が設置しなければならないと定められており、学校運営協議会制度を導入している学校は、フリースクールと呼ばれる。
- C. 学校運営協議会は、教育課程の編成に関する事項などについて学校長が作成する学校運営の基本方針を承認する権限を有しているほか、教職員の任用に関して教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることもできるとされている。
- D. 学校運営協議会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、地方公共団体の長が、文部科学大臣の承認を得て任命した委員によって構成することとされている。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 39】 プロジェクト・メソッドに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. P. パーターゼンがイエナ大学付属実験学校でその実施を試みた学校改革案である。彼は従来の8学年制を廃して3学年で構成される「基幹集団」を組織し、時間割、科目別によらない合科教授と集団作業を中心とするカリキュラム編成を基本とした。
2. C. W. ウォッシュバーンによって開発され実践化された教育改革案である。このカリキュラムは、共通に習得されるべき基礎的・常識的な知識や技能である「共通基礎教科」と、社会性や個性の育成を目指す「集団的創造的活動」の二つから構成される。
3. W. H. キルパトリックが論文を著して理論的に深化させ、教育の原理へと高めたものである。彼は学習者の生活と結び付いた教育を主唱し、教育過程を、目的の設定、計画の立案、実行、判断という4段階において定式化した。
4. B. F. スキナーによって提唱された個別学習の教授理論である。「オペラント条件づけ」を基礎としており、ティーチング・マシンを用いてスモール・ステップを踏みながら、段階的に学習を行うものである。
5. H. パーカーストが考案し実践した教育方法である。生徒に興味に応じて教科を選ばせ、教科別の「実験室」において教科担任の指導を受けながら、自分の速度で個別学習を進めさせるものである。

【No. 40】 ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 自らが社会生活の中で見聞きしたり、感じたり考えたりしたことについて、ありのままに文章に綴ることを中心とする学習方法である。その内容について集団で検討し合うことを通じて、自己と他者、自然や社会に対する認識の深まりと共有が図られる。
2. 良好な人間関係を築き保つための知識や技術を獲得することを目的とした訓練である。目標とする行動を教える「教示」、その行動を観察・模倣させる「モデリング」、実際に練習する「リハーサル」、行動に評価を与える「フィードバック」などで構成される。
3. 6人の小グループに分かれて6分間話し合う「6-6法」に代表される集団討議法を取り入れた学習方式である。小グループでの自由な討議が繰り返されることにより、学習者において、学習過程のあらゆる場面への積極的な参加が図られる。
4. 科学教育に関するものとして開発された授業方式である。学習者において、問題の提示を受け、実験結果の予想、仮説の設定・討議、実験というサイクルにより、検証を積み重ねながら、科学の基礎的・一般的な概念と法則を学ぶことが狙いとされる。
5. 数の四則計算の指導の体系として考案された授業方式である。問題を系統的に分類し、「一般から特殊へ」と呼ばれる原則に基づき指導過程が構成され、計算指導の実践においては、特徴的な教具として、数の十進構造を表すタイルが利用される。

【No. 41】 次は、雇用保険法の一部であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

第一条 雇用保険は、労働者が失業した場合及び労働者について が困難となる事由が生じた場合に必要な給付を行うほか、労働者が自ら を受けた場合及び労働者が子を養育するための休業をした場合に必要な給付を行うことにより、労働者の生活及び雇用の安定を図るとともに、求職活動を容易にする等その し、あわせて、労働者の職業の安定に資するため、 の予防、雇用状態の是正及び雇用機会の増大、労働者の能力の開発及び向上その他労働者の福祉の増進を図ることを目的とする。

A	B	C	D
1. 雇用の継続	医師又は歯科医師による健康診断	健康を増進	失業
2. 雇用の継続	医師又は歯科医師による健康診断	就職を促進	労働災害
3. 雇用の継続	職業に関する教育訓練	就職を促進	失業
4. 生活	医師又は歯科医師による健康診断	健康を増進	労働災害
5. 生活	職業に関する教育訓練	就職を促進	労働災害

【No. 42】 我が国の生活保護制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活保護法において、保障される最低限度の生活は、健康で文化的な生活水準を維持することができるものでなければならないと規定されている。
2. 生活保護法において、保護の原則として、要保護者の年齢や性別、健康状態にかかわらず同一の保護を幅広く行うことや、保護の要否は個人を単位として定めるものとすることが規定されている。
3. 生活保護法において、生活扶助と教育扶助は、原則として現物給付によるものとされており、介護扶助は、介護サービスの性質上、金銭給付によるものとされている。
4. 第二次世界大戦直後に制定された生活保護法では、保護司は、生活保護制度の協力機関と位置付けられていたが、現行の生活保護法では、補助機関として位置付けられている。
5. 厚生労働省の「令和 2 年度被保護者調査」によると、平成 28 年度以降、生活保護受給者数は増加傾向にあり、世帯数でみると、高齢者世帯は減少傾向が続いている一方、母子世帯は一貫して増加している。

koumuin-saiyo.jp

【No. 43】 我が国の高齢者福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 介護保険サービスを利用するときは、都道府県に要介護認定を申請する。要支援・要介護状態になったときは、50 歳以上であれば、発生原因を問わず介護保険サービスを受けることができる。
2. 高齢者の医療の確保に関する法律において、保険者は、40 歳以上の加入者を対象として特定健康診査を行い、また、その結果に応じて特定保健指導を行うものとされている。
3. 加齢に伴う身体機能の変化として、一般に、聴力については低音域から低下するが、肺活量や咀嚼機能は低下しないとされている。
4. 高齢者虐待防止法*において、市町村は、財産上の不当取引による被害に係る相談を除き、高齢者の各種相談に応じるものとされている。また、市町村長は、養護者による高齢者虐待に係る立入調査を実施できるが、地域包括支援センターの職員にそれを行わせることはできない。
5. 老人福祉法に規定される特別養護老人ホームは、収入等が一定水準以上の者を対象とした介護施設であり、入所者 1 人当たりの床面積 70 m² 以上の居室、週 6 回以上の入浴、入所者 1 人に対して 3 人以上の介護職員の配置といった基準が設けられている。

* 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

【No. 44】 社会的養護に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 児童福祉法において、里親とは、要保護児童(保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童)を養育することを希望する者であって、選挙人名簿に登録された者のうち、父母が適当と認めるものをいう。
2. 児童虐待を受けた児童を発見した場合には、児童相談所、市町村又は都道府県の設置する福祉事務所に通告する義務が全ての国民に課せられている。また、要保護児童であることが疑わしい段階での通告を防止するため、通告を受けた機関は、原則、通告者の氏名を公表することとされている。
3. 平成 29 年の児童福祉法改正により、児童相談所が虐待等を受けている児童について里親委託・施設入所措置の承認を申し立てた場合、家庭裁判所は保護者に直接指導し、指導結果を児童相談所に報告することとなった。また、児童相談所が親権者等の同意なく 2 日以上児童の一時保護を行う場合には、家庭裁判所の承認を得なければならないなど、司法関与が強化された。
4. 厚生労働省の「里親委託ガイドライン」では、里親家庭の選定の重要性や具体的な方法について明記されるとともに、里親支援機関との連携が有用であること、また、里親に養育を委託する子どもは、新生児から高年齢児まで全ての子どもが検討対象とされるべきであることなどが明記されている。
5. 自立援助ホームは、保護者のない児童や虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設である。中学校就学の始期から満 18 歳に達するまでの児童を対象とするが、必要と認められる場合には、満 20 歳に達するまで引き続き在所することができる。

【No. 45】 次は、我が国における障害者福祉に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

障害者総合支援法*は、障害者及び障害児が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な に係る給付、 その他の支援を総合的に行い、もって障害者及び障害児の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる の実現に寄与することを目的としている。

とは、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、療養介護、生活介護、短期入所、重度障害者等包括支援、施設入所支援、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、自立生活援助及び共同生活援助をいう。

は、相談支援や日常生活支援などに関して が地域の実情に応じて柔軟に事業を展開できるようになっている。

* 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

A	B	C	D
1. 障害福祉サービス	地域生活支援事業	Society5.0	都道府県及び市町村
2. 障害福祉サービス	地域生活支援事業	Society5.0	国
3. 障害福祉サービス	地域生活支援事業	地域社会	都道府県及び市町村
4. 地域生活支援事業	障害福祉サービス	Society5.0	都道府県及び市町村
5. 地域生活支援事業	障害福祉サービス	地域社会	国

【No. 46】 我が国の福祉財政に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 社会保障関係費は、平成 21 年度以降、財政健全化のため削減されており、令和 4 年度予算において、国の一般歳出に占める社会保障関係費の割合は、約 2 割となっている。
- B. 社会保障給付費(社会保障制度を通じて人々に提供された費用の総額について、ILO(国際労働機関)の基準を踏まえて算出したもの)を「医療」、「年金」、「福祉その他」に分類すると、令和 2 年度においては、「福祉その他」が最も多く、次いで、「医療」、「年金」の順となっている。
- C. 地方公共団体は、社会福祉の充実を図るため、児童、高齢者、障害者等のための福祉施設の整備及び運営、生活保護の実施等の施策を行っている。これらの諸施策に要する経費である民生費の決算額* について、その目的別内訳をみると、児童福祉費が最も多い。
- D. 社会保障財源を社会保険料、公費負担、その他の収入に大別すると、令和 2 年度においては、社会保険料が最も多い。また、公費負担に占める国の負担の割合は、地方自治体の負担の割合よりも高い。

* 『令和 4 年版 地方財政白書』における令和 2 年度の決算額(純計)

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 47】 我が国における保健福祉行政に関する機関についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 保健所は、地域保健法に基づき設置され、地域住民の健康の保持及び増進を図る機関である。
母性及び乳幼児並びに老人の保健や、治療方法が確立していない疾病などにより長期に療養を必要とする者の保健に関する事業なども行う。
2. 身体障害者更生相談所は、市町村に設置される機関である。平成 15 年、障害者福祉サービスの事業が支援費制度から措置制度へ移行したことに伴い、都道府県が行う支給決定事務に対する援助・指導の役割を新たに担うこととなった。
3. 知的障害者更生相談所は、身体障害者福祉法に基づき設置され、知的障害者に関する専門的相談や医学的判定を行う機関である。職員は、医師、薬剤師、保健師のいずれかの資格を有する者とされている。
4. 児童相談所は、都道府県に設置される機関であり、支援対象は、小学校就学の始期から満 15 歳に達するまでの者と定められている。平成 16 年の児童福祉法の改正により、従来、市町村の業務として規定されていた児童家庭相談は、主として児童相談所において応じることとされた。
5. 婦人相談所は、更生保護法に基づき設置され、性行又は環境に照らして売春を行うおそれのある要保護女子の保護更生に関する業務を行う機関である。医学的及び心理学的判定を行うが、職能的判定は行わない。

【No. 48】 我が国の地域福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 「新・社会福祉協議会基本要項」(平成4年)では、都道府県社会福祉協議会の事業として、福祉ニーズを持つ人々に対する「総合的な相談・援助活動および情報提供活動の実施」が掲げられるとともに、福祉サービスの的確な運営のため、民生委員の配置が必要とされた。
2. 厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」(平成20年)では、「制度の谷間」にある問題や多様なニーズについて、ボランティアの活用等、住民相互で支援活動を行う体制から脱却し、全て公的な福祉サービスによって対応すべきであるとされている。
3. 地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律では、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療、介護、住まい、生活支援等が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築が目指されている。
4. 共同募金は、市町村単位で募金と配分が行われるものであり、翌年度配分の原則で運営されている。現在は、大規模な災害の発生に備えた積立てが可能である一方で、他の市町村で起こった災害に対しての拠出はできない。
5. 市町村地域福祉計画の策定は、従来、市町村に努力義務が課されていたが、平成29年の社会福祉法改正により、任意となった。また、住民の負担軽減のため、策定に当たって地域住民等の意見を反映させることとした努力義務規定が削除された。

【No. 49】 次は、ソーシャルワークに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

A は、ソーシャルワーカーがクライアントの生活と権利を擁護するために、その知識と技術を駆使して、主として法律や制度、社会サービス供給主体に対して柔軟な対応や変革を求めて行う専門的・積極的な弁護活動である。

B では、主に、クライアントが抱える問題や課題、病気や障害に焦点を当て、クライアントを問題の原因を有している対象として捉え、問題(結果)を引き起こしている直接的な原因を特定しようとする。

C では、社会における差別、偏見、抑圧、排除などのために、社会的弱者として本来の力が発揮できない状態に置かれている人々が、自身の潜在能力に気づき、その能力を高め、生活上の困難をもたらしている環境に働き掛けて、生活問題を解決していけるように支援する。

D は、ソーシャルワーカーが課題を捉えていこうとするときに、支援対象の強さや能力に焦点を当てようとするものである。グループや地域社会・コミュニティなどクライアント個人にとっての外部環境の強さにも複眼的に着目していくことが期待されている。

A	B	C	D
1. アウトリーチ	治療モデル	エンパワメント	ナラティブアプローチ
2. アウトリーチ	治療モデル	ジェノグラム	ストレングスモデル
3. アウトリーチ	解決志向アプローチ	ジェノグラム	ナラティブアプローチ
4. アドボカシー	治療モデル	エンパワメント	ストレングスモデル
5. アドボカシー	解決志向アプローチ	エンパワメント	ナラティブアプローチ

【No. 50】 我が国の医療観察制度に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 平成15年に成立した医療観察法*により、従来、医療少年院(第三種少年院)に配置されていた社会復帰調整官が精神保健福祉センターにも配置されることとなった。
- B. 裁判所は、裁判官3人と精神科医である精神保健審判員6人から成る合議体を形成し、精神保健福祉士等、精神保健福祉の専門家である精神保健参与員の意見を聴いた上で、医療観察法による医療を受けさせる必要があるか否か等を決定しなければならない。
- C. 医療観察法の入院による医療の決定を受けた者に対しては、精神保健福祉センターにおいて専門的な医療の提供が行われ、また、生活環境の調整については、退院後から実施される。
- D. 医療観察法において、保護観察所の長は、精神保健観察の対象となる者について、指定通院医療機関の管理者、都道府県知事、市町村長と協議の上、その処遇に関する実施計画を定めなければならないとされている。また、実施計画の作成に当たっては、ケア会議が開催される。

* 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律

- 1. A
- 2. D
- 3. A、B
- 4. B、C
- 5. C、D

【No. 51】 R. K. マートンの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 社会集団における社会統合と社会規制の水準の違いという社会的要因から、社会集団間の自殺率の差異を説明するとともに、自殺について四つに類型化し、集団規範への服従又は集合的価値への強い一体感の結果として生じる自殺を「アノミー的自殺」と呼んだ。
2. 社会システムが存続してゆくために必要な機能要件について、適応、目標設定、独立、潜在性の四つを挙げ、社会システムから行為システム全体に一般化して適用できる認識的な枠組みとして、AGIL 図式を構想した。
3. 人間社会の進歩・発展は、それぞれの時代の人々の精神状態により規定されるとし、人間精神・思考方法の発展について、実証的段階から形而上学的段階を経て神学的段階へと至るとする「三段階の法則」を提示した。
4. 支払不能の噂が広まったことによって実際に倒産した銀行の事例などを挙げ、ある状況が起こりそうだと考えて人々が行為することによって、そう思わなければ本来起こらなかったはずの状況が実際に実現してしまう現象を「予(預)言の自己成就」と呼んだ。
5. 他人との直接的接触の過程において、他者が自分に期待している役割イメージと自己の認識している役割との間に乖離が生じることを「役割距離」と定義し、この役割距離を自覚することによって人間の自我が形成されるとした。

【No. 52】 パーソナリティや社会的性格に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. D. リースマンは、伝統の自明性に頼らず、明確な目標に導かれて行動する内部指向型の人々は内面にジャイロスコープ(羅針盤)を備えているのに対し、同時代の人間を行動の指針とする他人指向型の人々はレーダーをもっているとした。
2. G. ジンメルは、ファシズムや反ユダヤ主義などの反民主主義的なイデオロギーを受容しやすいパーソナリティ構造である権威主義的パーソナリティを分析し、そこに、上流階級特有の選民意識が存在すると指摘した。
3. K. マルクスは、『サモアの思春期』において、サモアとアメリカの若者を比較し、同じ肉体的な成長の過程をたどるのであれば、属する文化にかかわらず、その心理的な内実も同様に発達することを発見し、文化のパターンとパーソナリティ特性との相関関係を明らかにした。
4. 中根千枝は、日本人の行動様式は恥を基調としたもので、自己の内面に確固たる行動基準をもつがゆえに、たとえ他者には知られない非行であっても、恥の意識にさいなまれるとして、罪を基調とする西洋人の行動様式とは大きく異なることを指摘した。
5. T. W. アドルノは、わざと他者の期待に背いた行動をする違背実験を通じて、一つの集団や階層の大部分の成員が共有している性格構造の本質的な中核であり、その集団や階層に共通な基本的経験と生活様式の結果である「社会的性格」を発見した。

【No. 53】 次は、M. ヴェーバーの官僚制に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

官僚制という言葉は、政治学的な意味内容を付与されたり、日常用語として用いられったりするように、多義的に使われるものであり、社会学の概念の中でも、その用いられる文脈や意味の多様性が認められるものといえる。M. ヴェーバーの定義によれば、官僚制とは、A な組織の目的を能率的に達成するため、組織の活動が分業化された管理運営の体系である。

この定義にみられる官僚制について、彼は『B』の中で、正当的支配のうちの一つであるCの最も純粋な型として規定している。官僚制の構造的・機能的特性は、規則の体系、権限のヒエラルヒー、人間関係の非人格性、職務のDに求められるとされている。

A	B	C	D
1. 複雑かつ大規模	支配の社会学	カリスマ的支配	一般化
2. 複雑かつ大規模	支配の社会学	合法的支配	専門化
3. 複雑かつ大規模	資本論	カリスマ的支配	専門化
4. 単純かつ小規模	支配の社会学	カリスマ的支配	専門化
5. 単純かつ小規模	資本論	合法的支配	一般化

【No. 54】 J. ハーバーマスの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『シンボリック相互作用論』において、人間の行為は自らが認知した記号に対する単純な反応として形成されるとし、人間の主観的側面を排除した上で、言語を中心とするシンボルと人間の関係から社会の変化・変容を解明しようとした。
2. 言語コード論を展開し、労働者階級の子供は、単純な語彙で構成される「限定コード」を仲間内で操作しながら、教師から文法上正確な「精密コード」も習得するため、学校教育を通じて飛躍的に語彙力が向上するとした。
3. 異なる交友圏に属する人々との間に多くの関係性を持っても、それが知人的な薄い関係性にとどまる限り異なる集団間に情報は流れず、コミュニティがまとまることはないとし、このような脆弱な関係性を「弱い紐帯」と批判的に捉えた。
4. 『ハマータウンの野郎ども』において、学校文化に逆らおうとする不良者らの中で、不良者の逸脱文化と接触した他者にその文化が解釈・学習される過程が観察されたとし、分化的接触理論を提唱した。
5. 『コミュニケーション的行為の理論』において、コミュニケーション的行為とは、言語を媒介として自己と他者の間で相互理解を目指して行われる相互行為であるとし、成果志向的な戦略的行為から区別した。

【No. 55】 メディアに関する研究についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. P. ブルデューは、大統領の就任式など、祝祭的・セレモニー的な性格を持つ「メディア・イベント」が為政者の持つ支配的価値を過度に強調し人々の抑圧を招くことにより、社会の分断につながると考えた。
2. G. タルドは、人間がマスメディアの影響を受けて頭の中に描く環境のイメージを「擬似環境」と呼び、これを現実環境に比べて情報量が多く優れたものであると考え、現実環境について、擬似環境を目指して変化させるべきだとした。
3. M. マクルーハンは、人間の感覚器官や運動器官を外化したテクノロジー一般であるメディアそのものが、それが運ぶメッセージとは独立に、人間の経験や社会関係を構造化する力を持っていると考え、この力について「メディアはメッセージ」と言い表した。
4. M. マコームズと D. ショウは、ある争点に関する流動的な世論状況の下で、マスメディアが多数派の意見を意図的に報道しないことで、多数派の人々が沈黙を強いられる傾向があることを発見し、これを「沈黙の螺旋」モデルと名付けた。
5. P. F. ラザースフェルドは、選挙予測の世論調査などで、大衆が、劣勢だと予測された方でなく、優勢だと判明した方に味方して行動する傾向を発見し、マスメディアがもたらすこのような効果を「アンダードッグ(負け犬)効果」と呼んだ。

【No. 56】 次は、社会関係資本に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

R. パットナムは、地方自治、経済成長、市民参加などの制度的なパフォーマンスの研究において、社会関係資本がその成果の違いを生み出すとした。

社会関係資本とは、社会的信頼に基づいて社会ネットワークに投資することで得られる価値、社会的組織の総体である。道路や橋などの物的な投資資本である とは異なり、 への投資である点や、使用されてこそ価値が増す点、その効果が外部に及ぶ点などが特徴である。

彼は、社会関係資本を、同一集団内の効用のみを高める と、異なる集団間で効用を高め合う橋渡し型とに分類した。

A	B	C
1. 文化資本	国際関係	結束型
2. 文化資本	国際関係	ササラ型
3. 文化資本	人間関係	結束型
4. 社会資本	国際関係	ササラ型
5. 社会資本	人間関係	結束型

【No. 57】 近代・現代社会に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. D. ベルは、社会発展の3段階として、「前工業社会」、「工業社会」、「脱工業社会」の概念を提示し、知識・サービス産業が中心となる脱工業社会では、専門職・技術職の比率が高まるとした。

イ. A. R. ホックシールドは、ファストフード・レストランを規定している合理化に関する諸原理が現代社会の様々な生活領域に浸透していくと考え、その過程を「マクドナルド化」と呼び、これにより人々の間には親しみやすく情緒的な相互行為が生まれるとした。

ウ. A. ギデンズは、社会全般にわたって、社会的な営みが、新たに得られた情報や知識によって絶えず検討・改善され、その結果として大きな変化を遂げるダイナミズムが生じる近代化の在り方を「再帰的近代化」とした。

エ. J. F. リオタールは、近代化の進展に伴い、経済秩序を始め様々な事柄が長期的で固定的なものと化し、個人は安定した居場所を持てるようになるとし、リキッドな近代からソリッドな近代へと移行するとした。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 58】 我が国のジェンダーについての現状に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

なお、データは『令和4年版 男女共同参画白書』による。

- A. 正規雇用労働者数についてみると、男女ともに平成26年まで緩やかに増加する傾向にあったが、平成27年以降、令和3年に至るまで、男性は一貫して増加しているのに対して、女性は減少ないし横ばいの水準にとどまっている。
- B. 女性の年齢階級別労働力率*は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇する、いわゆるM字カーブを描いてきたが、近年、M字の底となる年代の労働力率の上昇により、M字の谷の部分が浅くなる傾向にある。
- C. 18歳以上の者を対象とした「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識に関する調査において、平成28年の調査以降、男女ともに「反対」又は「どちらかといえば反対」とする者の割合が「賛成」又は「どちらかといえば賛成」とする者の割合を上回った状態にある。
- D. 国会議員に占める女性の割合についてみると、令和4年3月現在、我が国の衆議院議員に占める女性の割合は25%を上回っており、国会議員に占める女性の割合が世界第1位である米国の約28%に準じる高い水準にある。

* 15歳以上人口に占める労働力人口の割合

- 1. A、C
- 2. A、D
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 59】 我が国の青少年のインターネット利用状況等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 内閣府の調査^{*1}によれば、令和3年における満17歳までの子供のインターネット利用率を年代別にみると、0歳から6歳までの未就学児では全体の5%に満たず、年代が上がるにつれて上昇するが、高校生でも全体の80%には達していない。
2. 内閣府の調査^{*1}によれば、令和3年における満17歳までの子供のインターネット利用内容を年代別にみると、「勉強をする」、「投稿やメッセージ交換をする」、「動画を見る」のうち、中学生では「勉強をする」が、高校生では「投稿やメッセージ交換をする」が、それぞれ最も多い。
3. 内閣府の調査^{*1}によれば、令和3年において満17歳までの子供がインターネットのために利用している機器は、全ての年代でスマートフォンが最も多い。そのうち、自分専用のスマートフォンを使っている子供の割合は、中学生では全体の50%程度となっている。
4. 内閣府の調査^{*1}によれば、平成29年から令和3年までの5年間における満17歳までの子供の平日1日当たりのインターネットの平均利用時間をみると、中学生と高校生はいずれも増加傾向にあり、高校生では、令和3年には約5時間30分と、平成29年と比べると約1.5倍になっている。
5. 警察庁の発表^{*2}によれば、SNSに関連した18歳未満の児童の犯罪被害者数は、近年徐々に減少しており、令和3年には、平成29年と比べると半分以下になっている。また、平成29年から令和3年までの5年間における被害の内訳をみると、児童福祉法違反が一貫して最も高い。

*1 「青少年のインターネット利用環境実態調査」

*2 「令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」

【No. 60】 次は、社会調査における尺度に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- A は、異なる分類カテゴリーを区別する符号・記号としての意味しかもたないデータである。例えば、性別や出身地などがこれに当たり、度数や最頻値を求めることができる。
- B は、大小関係が成り立ち、その大小により段階付けられるデータである。例えば、成績(優、良、可、不可)や徒競走の順位などがこれに当たり、中央値やパーセンタイルを求めることができる。
- C は、数値どうしの間隔が一定で、絶対零点をもつデータである。例えば、身長・体重や収入額などがこれに当たり、平均の計算を始め、四則計算の全てが可能である。

A	B	C
1. 名義尺度	順序尺度	比例尺度
2. 名義尺度	順序尺度	間隔尺度
3. 名義尺度	間隔尺度	比例尺度
4. 比例尺度	順序尺度	間隔尺度
5. 比例尺度	間隔尺度	順序尺度

U2－2023 専門多肢

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	4	21	1	41	3
2	5	22	3	42	1
3	4	23	2	43	2
4	5	24	3	44	4
5	1	25	5	45	3
6	5	26	4	46	5
7	1	27	5	47	1
8	2	28	3	48	3
9	1	29	5	49	4
10	1	30	3	50	2
11	3	31	4	51	4
12	1	32	1	52	1
13	2	33	1	53	2
14	3	34	3	54	5
15	2	35	5	55	3
16	2	36	4	56	5
17	1	37	5	57	2
18	2	38	2	58	3
19	2	39	3	59	4
20	4	40	2	60	1